

## 4. 事業効果

### (1) 全国テストの実施

全国テストの実施時期と開催回数が、開講日が当初計画より遅れたため、本部町営塾は2回の実施とした。

① 10月、11月、12月、2月

・ 10月、12月、2月・・・東村営あがいていだ塾、波照間塾、黒島塾

・ 11月、2月・・・・・・・・本部町営塾

< 10月例テスト >

10月13日

### R4 沖縄県 DX 促進事業

(オンライン学習塾支援事業)

令和4年度 10月定期テストについて

(東村営塾・波照間塾・黒島塾)

<タイムスケジュール>

- 1, 10月22日(土): 各塾へ月例テスト用紙の到着
- 2, 10月23日(日)~26日(水): テスト実施
- 3, 10月27日(木): 補助員から担当講師へ、解答用紙を送信 (@チャットワーク)
- 4, 10月28日(金)~10月30日: 担当講師答案採点。
- 5, 10月31日(月) ネットへWEB入力

<受験科目。>

- 1, 小学5年生、6年生

・ 国語  
・ 算数

※各科目 40分~50分

- 2, 中学1年生、2年生

・ 英語  
・ 数学

※各科目 40分~50分

※受験は英語・数学の2科目です。

但し、「国語のテスト用紙」は配布されますが、力試しに受験することも可能です。

英・数・国を受験すると、志望校の判定が出ます。

- 3, 中学3年生

・ 英語  
・ 数学  
・ 国語

※各科目 50分~60分

※志望校判定が出来ます。

## < 11月例テスト >

11月14日

### R4 沖縄県 DX 促進事業

(オンライン学習塾支援事業)

令和4年度 11月定期テストについて

(本部町営塾)

#### <タイムスケジュール>

- 1, 11/22 (火) 用紙到着
- 2, 11/22 (火) ~11/25 (金) テスト実施
- 3, 11/26 (土) ~11/28 (火) 補助員から担当講師へ、解答用紙を送信。担当講師採点
- 4, 11月30日 (水) Web 入力

#### <受験科目>

- 1, 小学5年生、6年生

- ・算数
- ・国語

※テスト時間：各科目 40分

#### ※受講者数

- ・小学校 5年生 9名 (町営ホール=5名。自宅=4名)
- ・小学校 6年生 6名 (町営ホール=3名。自宅=3名)

#### <テスト実施方法>

- 1, 町営ホール受講者・・・町営ホールで受験
- 2, 自宅受講者・・・自宅受験
  - ・テスト時間は、厳守
  - ・自己管理でテスト。
- 3, 補助員は、受験者から解答用紙を回収。
- 4, 回収した解答用紙を担当講師へ送信。
  - ※チャットワークで、TO、で担当学年・科目の担当講師へクリックして送信。
- 5, 担当講師は採点。採点完了後、WEB入力担当者へ送信。
- 6, WEB入力。

## <12月例テスト>

12月6日

### 令和4年度 沖縄県 DX 促進事業

(オンライン学習塾支援事業)

令和4年度 12月定期テストについて

(東村宮塾・波照間塾・黒島塾)

#### <タイムスケジュール>

- 1, 12月16日(金)～12月19日「月」:各塾へ月例テスト用紙の到着
- 2, 12月20日(火)～24日(土):テスト実施
- 3, 12月24日(金):補助員から担当講師へ、解答用紙を送信(@チャットワーク)  
(テスト終わり次第、送付しても構いません)
- 4, 12月24日(金)～12月26日(月):担当講師答案採点。
- 5, 12月28日(水) or 1月4日(水) ネットへWEB入力

#### <受験科目。>

- 1, 小学5年生、6年生

・国語  
・算数

※各科目 40分

- 2, 中学1年生、2年生

・英語  
・数学

※各科目 40分

※受験は英語・数学の2科目です。

但し、「国語のテスト用紙」は配布されますが、力試しに受験することも可能です。

英・数・国を受験すると、志望校の判定が出ます。

- 3, 中学3年生

・英語  
・数学  
・国語

※各科目 50分

※志望校判定が出来ます。

<テストの実施>

1, テスト実施日時

- (1) 12月20日(火)～12月24日(土)

授業時間を活用。授業時間受験できない場合は、その期間内に行う。

2, テスト実施方法等

- (1) 東村営塾

・東村あがいていーだ塾

※自宅での受験：テスト曜日・時間が合わず、あるいはどうしても自宅からの受験を希望する方。

- (2) 波照間塾・黒島塾

・波照間塾

※自宅での受験：テスト曜日・時間が合わず、あるいはどうしても自宅からの受験を希望する方。

- (3) 黒島塾「

・自宅での受験。

- (4) 自宅での受験の場合。

・自己管理になります。

・テスト時間は、厳守。

3, 補助員さんは、受講者から解答用紙を回収

4, 回収した解答用紙を担当講師へ送信

※チャットワークの、TOで担当科目の担当講師をクリックして送信。

5, 担当講師採点→高瀬先生へ送付

6, WEB入力

## < 2月例テスト >

1月20日

令和4年度 沖縄県 DX 促進事業  
(オンライン学習塾支援事業)

### 令和4年度 2月定期テストについて

(東村営塾・波照間塾・黒島塾・本部町営塾)

#### <タイムスケジュール>

- 1, 2月1日(水)～2月4日「月」:各塾へ月例テスト用紙が到着
- 2, 2月6日(月)～2月11日(土):テスト実施
- 3, 2月7日(火)～:補助員から担当講師へ、解答用紙を送信(@チャットワーク)  
(テスト終わり次第、送付しても構いません)
- 4, 2月7日(火)～2月13日(月):担当講師答案採点。⇒高瀬先生へ送付
- 5, 2月14日(火) or 2月15日(水) 点数WEB入力

#### <受験科目。>

- 1, 小学5年生、6年生

・国語  
・算数

※各科目 40分

- 2, 中学1年生、2年生

・数学  
・英語

※各科目 40分

但し、「国語のテスト用紙は配布されますが、力試しに受験することも可能です。

中学2年生は、英・数・国を受験すると、志望校の判定が出ます。

- 3, 中学3年生。

受験はありません。

■10月テスト 論評

●東村・波照間・黒島

学年	教科	担当講師	月例テスト結果に対する論評
小5	国語	■■■■■	どちらの生徒も漢字・語彙・説明文・物語文の全分野において満遍なく得点できていた。しかし、授業をしていて感じられる生徒間の理解度の差が、点数の差に如実に出たように思われる。今後の授業では点数差の要因となった記述問題をより重点的に扱いつつ、これまで通り基礎の徹底も図っていきたい。
	算数	■■■■■	全員50点以上は取れており、基礎的な部分はある程度理解できているように感じる。まだ授業で触れていない面積や図形の問題は得点率が低かったので、今後の授業でフォローアップしていきたい。生徒間で理解度の差が大きいので、それぞれに合った学習ができるよう、授業内の工夫も求められる。
小6	国語	■■■■■	前半部の漢字・文法問題に関しては多くの生徒が取るべき問題を取れている。ただし、文章問題になると、普段の授業で扱う文章よりも長く語句レベルも上がるためか、正答率に差が出てしまっていた。読書習慣の有無や試験中の集中力を身につけることが、テストにおける読解問題の出来を左右すると思われる。
	算数	■■■■■	序盤の基本問題での取りこぼしが勿体無いと感じた一方で、一部の生徒は後半の応用問題にチャレンジし、しっかり得点もできていた。算数の場合、問題を解くスピードと計算力が直結するため、基礎的な問題を素早く解き切る計算力を強化する必要があるだろう。
中1	数学	■■■■■	生徒によって理解度の差が大きい。問題自体には最後まで挑戦できているが、正解に至っていない場合が多い。簡単な計算問題も確実に得点できるよう、月例テスト以降は、特に計算方法やケアレスミスの起きそうなポイントについて、授業中に繰り返し扱っているため、次回の得点UPを期待したい。
	英語	■■■■■	選択問題の正答率は比較的高かったですが、読解や作文の問題は正答率回答率ともに低くなっていました。単純に時間が足りなくなってしまうこと、語彙力や作文力に不安があることが原因だと思います。語彙や文法の基礎的な理解をもう一度徹底したうえで、読解や作文なども練習を積んでいきたいです。
中2	数学	■■■■■	空欄が多かった印象を受けました。また1次関数の出来がよかった反面で、連立方程式の出来が悪かったです。連立方程式・1次関数は中2で最も大事で入試にも頻出の単元なので復習とその問題演習をたくさん積むことが大変重要であるので、次回はそれを指導したいと共に空欄をできるだけ作らないことも授業内で伝えたい。
	英語	■■■■■	生徒間の点数の差が非常に大きかった。記問題に手をつけただけの解答も見られ、テストに取り組む姿勢の違いが点数差の一要因になったと考えられる。スペルや活用のミスといったケアレスミスも散見されたので、今後の授業では基礎の徹底に加え、ミスに対する注意喚起も行っていきたい。

中3	国語	■■■■■	生徒の話やテストの結果を見たところ、まず「テストを全力でやる」という意識がかなり低いように感じられた。そのため、空欄が目立つ人がかなり多かった。点差も開いており、特に漢字、文法辺りで差が開いたように思われた。まずは、基本的なテストをとくマインドと、解き方のコツを解説では伝えた。
	数学	■■■■■	生徒間の点数が大きいが、必ずしも学力差によるものだけではなく、テストに取り組む姿勢の違いも感じられた。前半の計算問題は、時々計算ミスがあるものの比較的よくできていたが、応用問題に手がないう生徒が多かった。基礎を復習しつつ、実力を伸ばしていきたい。
	英語	■■■■■	点数は全体的に低く、実力を十分に発揮できているものとは言えない。授業中の方がしっかりと問題に取り組んでおり、まずはテストに真剣に取り組むことに挑戦してほしいと感じる。一方で、基礎が身につけていない子も一定数いることも確かなので、応用問題の前に、文法や、スベルなど、基礎的な部分から詰めていく必要がある。

■11月テスト 論評

●本部町

学年	教科	担当講師	月例テスト結果に対する論評
小5	国語	■■■■■	授業態度が点数にほとんど比例する結果となった。集中力のもたない生徒も多かったが、解説はとても熱心に受講していて、向上心が感じられた。全員正答できなかった記述問題は特に詳しく解説した。多少文章問題への苦手意識が減じたようだった。
	算数	■■■■■	生徒によって大きく点数がばらついた。大問ごとに見ていくと、計算問題が中心であり、比較的難易度の低い大問1での正答率の低さが目立つ。単純な計算ミスによる誤答も多く、今後は見直しの習慣を徹底することで点数の底上げが可能となるだろう。
小6	国語	■■■■■	全体的に正答率にばらつきがあった。授業中も正答率の高い生徒は漢字問題で満点を取るなど、高いパフォーマンスを発揮した。読解の記述問題は、かなり苦戦しているようであったため、解説授業では積極的に取り上げた。授業態度は良い方で、熱心に解説を聞いているので、これからの伸びに期待したい。
	算数	■■■■■	授業で扱っている、分数の計算問題は比較的正確率が高かった。しかし、文章問題になるとあまり結果は良くなかったため、基本をどう応用するか、その考え方のプロセスをしっかりと教えていきたい。授業態度が非常に良く、宿題もきちんとやってくる生徒達なので、今後もどんどん成績が伸びていくと思われる。



■12月テスト 論評

●東村・波照間・黒島

学年	教科	担当講師	月例テスト結果に対する論評
小5	国語	■■■■■	普段から授業に出席している生徒が全員未受験であったことから、授業とテストの関連性については言及し難い。漢字・文法問題にはどの生徒もしっかりと取り組んでいた一方で、説明文と物語文の問題に関しては正答率に差が出たため、授業ではこれまで通り文章問題を中心とした演習を行い、読解力と表現力を養成していきたい。
	算数	■■■■■	回収率が低く全体的な講評は難しいが、今回の受験者に関していえばあまり成績が振るわなかった（前回よりも得点減）。これまでの授業内容である乗除の計算の範囲での失点も多くみられ、今後の授業でも継続的なフォローアップの必要性が感じられる。算数に苦手意識を持っている子が一定数いるため、まずは前向きに取り組む姿勢を持ってもらえるような工夫が大切かもしれない。
小6	国語	■■■■■	前回（10月）に比べると、後半の文章題まで取り組める生徒は増えていたものの、記述問題の回答率は低かった。読む力・読む習慣と並行して、自分で書く力・書く習慣を生徒に指導する必要があると感じた。普段のテキストの文章題においても、文章もまとめる（要約する）ことで読む力と書く力の両面を伸ばすことを習慣づけてい
	算数	■■■■■	生徒間の点数の差が大きかった。全体的に約分のし忘れというもったいないミスが多かったため改善できると良い。また図形問題に苦手意識があるのか全体的に正答率が低かった。苦手意識を克服しにくい分野のため次回の授業でしっかり復習するよう促したい。
中1	数学	■■■■■	今回の受験者1人に関して言えば、非常に優秀な成績だった。解説を行ったところ、設問の意図が分かれば立式・計算は問題なくすることができた。数問の失点もほとんどケアレスミスだった。普段暗算をする傾向があるため、正負の数の計算の際は特に符に慎重に計算することが求められる。
	英語	■■■■■	今回のテストを受験した一人に関して言えば、選択問題の正答率が高い一方で敵後補充の文法問題や、英作文など自分で書く問題の正答率が低かった。基本的な文法と単語の理解はしているが、完全に覚えて使える状態には達していないためと思われる。そのためまずは単語と文法という基礎を身につける必要がある。
中2	数学	■■■■■	90点台の生徒もいれば10点台の生徒もおり、生徒間で差が大きかった。最近習った角度や証明の問題は出来が良かったが、連立方程式と1次関数の出来が全体的に良くなかったです。ここは非常に大事な単元なので復習が絶対に必要です。次回の授業内でしっかり復習とその方法を促したい。
	英語	■■■■■	生徒間の点数の差が大きかった。授業に毎回出席している生徒数名が、10月の月例テストから飛躍的に成績を伸ばしたことから、授業での学習が学力向上や学習習慣の形成に寄与していると考えられる。単語や文法といった基礎の徹底

中3	国語	■■■■■	ほかの先生方が書いている通り、回収率が低く、全体的にどれだけテストへの取り組み方や点数が変化したかが測りにくかった。前回のテストの解説では、「とにかく空欄を作らない」ということを強調したが、改善度合いは人によってばらつきが大きかった。もともとそこまで空欄の多くない人は、空欄をほぼゼロにする努力ができていたが、もともと空欄がとても多かった生徒はあまり変化がない場合もあった。
	数学	■■■■■	体調不良の生徒が多く、そもそも回収できた答案の数が少なかった。回収できた答案については、受験直前ということもあり、基礎基本はできていることが多かった。ただし、本番でのパフォーマンスを考えると、さらにケアレスミス減らしていくような練習が必要だと思われる。
	英語	■■■■■	回収率が低く、理解度を把握できていない生徒も多いが、前回と大幅な変化はなかった（波照間はややUP）。受験を意識すると、スペルや文法などを確実に覚えていく必要がある。また、文章問題で失点している生徒も一定数いるため、受験前の過去問演習でいかに解き方のtipsを伝え、問題に慣れてもらえるかが鍵となる。

■2月テスト 論評

●東村・波照間・黒島

学年	教科	担当講師	月例テスト結果に対する論評
小5	国語	■■■■■	物語文以外の分野では満遍なく得点できていた。今回の物語文の問題は、文章が長く選択肢問題の難易度も高かったため、生徒たちの得意不得意に応じて点数に大きく差が出た。今後は物語文を中心とした文章問題演習を実施していきたい。
	算数	■■■■■	少数の回答しか得られなかったが、生徒一人一人に成長が見られた。必ずしも得点に反映されているわけではないが、全くやる気の見られなかった子ども、最後の大問までチャレンジしている様子が窺えるなど、今後の学習態度の向上には少しずつではあるが寄与しているのではないかと考える。また、得点につながるように授業内容の徹底という面も、今後も継続して意識されたい。
小6	国語	■■■■■	想定以上に敬語の問題で苦戦している生徒が多かった。実際の生活で、なかなか使う機会がないためかもしれないが最低限の敬語表現は身につけておく必要があるだろう。また文章問題に関しては、解説授業では文章の内容自体は理解できているようだったが設問に回答するとするとそれを表現できていないケースが多くあるように感じた。
	算数	■■■■■	全体的に出来が悪かった。大問1は計算問題であり、計算は基礎であるため得点源とすべきである。全体として時間の厳しさを感じた様子であり、理解廃止しており時間をかければ解けるようである。そのため普段の授業では演習時間を短く設定して早く処理する練習が必要と感じた。
中1	数学	■■■■■	答案数が少なかったが、点数で言えばそこまで大きな伸びは見られなかった。しかし、学習態度という面で見れば、初回と比べて粘り強く問題に取り組む姿勢が窺えるようになった。今後も、学習内容の定着という観点も徹底しつつ、学習意欲の向上という点にもアプローチした授業を展開したい。
	英語	■■■■■	一名の答案しか回収できなかった。回収できた答案に関していうと、まずは単語と文法という英語の基礎を固めるという学習が必要である。もっと自習時間を増やすように授業の際には促していきたい。
中2	数学	■■■■■	全体的に出来が悪かった。最近やった図形・合同の問題は出来がよかったものの、以前授業で扱った連立方程式・一次関数の出来が総じて悪かった。復習しておらず忘れてしまっている生徒が多いと思われるので、復習を促すとともに今後の授業内で時々おさらいする必要がある。
	英語	■■■■■	全体的にあまり出来が良くなく、単語や文法、動詞の活用といった基礎から再度徹底する必要があると感じた。また、生徒間の点差が大きかった。テストに取り組む姿勢の違いが点差の主な要因になったと思われる。

●本部町

学年	教科	担当講師	月例テスト結果に対する論評
小5	国語	■■■■	集中力を切らしてしまう生徒が目立った。逆に最後までできちんと解き切れた生徒もいた分、後半の問題を中心に点差の開きが大きかった。文章問題への苦手意識もまだ抜けきっていないようである。解説では文章問題を中心に据え、テスト自体へのアドバイス（時間配分の考え方など）も組み入れた。
	算数	■■■■	基本的な問題が並ぶ大問1の正答率は比較的高かった。前回実施の月例テストの結果と比較しても、イメージミスは減少しており、高得点を取ることへの意欲と集中力の向上がうかがえる。一方で、割合と速さに関する問題の正答率は全体的に低かった。これらの分野について集中的なフォローを行えば、平均点の向上につながるだろう。
小6	国語	■■■■	生徒による点のばらつきが見られたが、どの生徒も漢字や敬語の正答率は悪くなかった。数学や英語に比べ、勉強が点数に直結しにくい国語で基礎事項の積み上げが出来ていることはとても良いことだ。今後は読解問題を中心に学習を進め、文章や問題に慣れることで大きく点数が上がるように思われる。
	算数	■■■■	点数はあまり良くなかった。しかし、授業では出来ていたものや約分忘れなどの凡ミスで点を落としたものが多かったため、復習を行ったり見直しを心がけたりすることで点数もあがるのではないかとと思われる。

## (2) 授業実施に関する成果・報告書

### ①全体の講評

今年度よりスタートした離島・過疎地域づくり DX 促進事業であったが、年度末まで生徒の成績向上を意識した楽しい授業を提供できた。小学生から中学生まで、東大生に各科目における基礎知識だけでなく、試験期間の心持ちや効果的な勉強方法等まで学ぶことにより、あらゆる面から学習に関するレベルアップが図れたのではと考える。

結果として数値で表れてくることが理想ではあるが、結論として満足いく結果にはあと一歩届かなかった。この点に関しては大きく2点問題が挙げられる。

1つ目として、「受験生徒のばらつき」である。今年度は各月で受験者・受験科目に大きくばらつきがあった。基本的に、受講者全員が年3回のテストを全科目受験することを徹底することで、経時的な成績推移を観察していきたいと考える。

2つ目として、「2月テスト範囲の網羅度の高さ」である。2月に実施したテストは出題範囲が1年の学習カリキュラム全範囲となっており、授業の中で扱うことのできなかった単元も数多く出題された。これにより授業の効果を正確に検討することが困難になってしまったため、来年度以降は2月の受験は避けるべきだと考える。

来年度も現地の方々と密に連携をとりながら生徒のニーズにあった質の高い授業を継続していくことが重要である。更なる成績の向上を目標に、あらゆる取り組みにチャレンジしていこうという気概である。

②各学年及び教科に関して、担当講師が、授業の注力領域と成果及び改善点とその対応をまとめる。

## ■東村, 波照間, 黒島における授業講評

小学5年生

小5国語

### 注力領域と結果（成果）

漢字や文法、慣用句といった知識問題から文章問題まで幅広いジャンルの問題を扱った。漢字や文法に関しては毎授業で必ず扱うようにし、間違えた問題は繰り返し復習するよう促した。文章問題では説明文、物語文、随筆文の3つを満遍なく扱い、それぞれに特有の読解方法を伝えた。結果として知識問題では正答率が大幅に上がり、文章問題では記号や抜き出しの正答率が上がったことに加え、記述の得点率も向上した。

### 注力領域と結果（改善点）

教科書に準拠したテキストをベースに授業を行い、教科書で読んだことのある文章で問題演習を進めたため、読んだことない文章を制限時間の中で読んで問題に解答するという、実際の試験で要される実戦的な力を養成することができなかった。また、授業内容の復習となるような宿題を適宜出したが、宿題をきちんとこなしてきた生徒は少なかったことから、授業の中で前回の授業の復習となるような演習や小テストを実施する必要もあったと考えられる。

小5算数

### 注力領域と結果（成果）

特定の注力範囲があったわけではないが、ただ公式を覚えるのではなく、算数という概念をより体系的に掴むために、「どうしてそのような式になるのか」「他に求める方法はないか」などの視点を意識しながら学習を進めた。ただひたすらに計算問題を解くのではなく、「なぜそうなるか」の部分を抽出して授業を展開することで、生徒が応用問題を解く際も、初見で解く時よりも深く考えながら取り組んでいるように感じた。また、授業内容を自らの言葉で説明できるようになった生徒も見られた。

### 注力領域と結果（改善点）

課題としては、月例テストの点数に成果が反映されなかったように、生徒が塾で学んだことをその他の学習に十分に生かできていないという事実が挙げられる。生徒が継続的に通塾できなかったことも要因の1つかもしれないが、学びの定着の部分をフォローすることは必ずしも十分にできていたわけではないため、限られた授業時間の中で、いかに過去の範囲と結びつけながら、定着させることができるかが今後の課題として残る。

## 小学6年生

### 小6国語

#### 注力領域と結果（成果）

授業では文章ジャンルごとの読み方について注力してきた。特に、抽象と具体/対比/因果関係などの基本的な思考方法や事実と意見を分けて読解を行うことについては、何度も指導を行った。その結果、文章に対する理解力が高まったとともに自分の意見を整理して伝える能力に関して、向上していった。また漢字の読み書きに関しても、宿題として継続的に取り組んでいたため、テストでも高い正解率になっていた。

#### 注力領域と結果（改善点）

文章の理解やそれを伝えるということに関して、テストで能力を発揮するということへの指導が甘かったことが改善点である。授業中の口頭ベースでは理解を講師である私がアシストできるが、テストでは生徒が1人で取り組む必要があり、その能力を高められていなかったがゆえにテストの成績が振るわなかった。授業中に小テストのような緊張感を伴う演習を取り入れるべきであったらう。

### 小6算数

#### 注力領域と結果（成果）

基本的な公式の確認、計算力の向上等算数における最重要ポイントに注力して授業を行った。その結果、月例テストや普段の授業の際には基本的な問題の正答率を向上させることができた。応用問題に関していうと、少し噛み砕いて考えることで基本的な問題と同様に対処することができるということを実感してもらえようように努めた。

#### 注力領域と結果（改善点）

生徒の間で理解度や正答率に大きな差があり、その差を考えるとどのペースで授業を進めるべきなのかが難しかった。差を埋めるために宿題の出す量や範囲、実施状況の確認についてももう少し考慮する必要があったと思う。また、拠点によって出席率に違いも大きく、教室内での雰囲気の違いによるものと思われる。拠点間の違いにもさらに配慮が必要と思われる。

## 中学1年生

### 中1 数学

#### 注力領域と結果（成果）

注力した部分としては、ただ公式を覚えるのではなく、「どうしてこのような公式になるか」「別解はないか」などの視点から各単元を捉えることである。体系的に数学の概念を掴むことで、応用力を養成する狙いがある。成績としてもやや向上したが、授業中の理解度を見ていても、別解を考えられるようになり、自分の言葉で説明できるようになり、全体的な理解度が上昇したように思われる。

#### 注力領域と結果（改善点）

改善点としては、包括的に単元を抑えられなかった点が挙げられる。生徒の出席率が低く、なかなかテキストを進めることができなかったことが要因としてあるが、後半の単元についても理解を深める時間を取ることができなかったところに課題が残る。また、授業で扱った範囲に関しても、成果としてテスト等の応用問題に必ずしも反映されていたわけではないため、授業と演習の繋がりフォローも十分にする必要があった。

### 中1 英語

#### 注力領域と結果（成果）

まずは英語の基礎である単語と文法に注力して授業を行った。単語は覚えられていないものはすぐに覚えるように促し、文法に関して理解が浅い部分やまだよく覚えられていない部分について、重点的に解説を行った。その結果、文法問題に対する苦手意識は下がり、正答率も向上させることができた。

#### 注力領域と結果（改善点）

全体として授業への出席率が低かった。授業の間隔が空いてしまうと、授業内容の定着率が極めて下がってしまうため、まずは授業への参加をもう少し促していく必要があった。また、授業への参加が少ない分自宅学習の時間を増やすように、宿題を多めに出すなど出席率を考慮する必要があると思われる。

## 中学2年生

### 中2数学

#### 注力領域と結果（成果）

2月の偏差値が12月の偏差値と比べて低下してしまった原因として、重要単元である連立方程式・1次関数の復習が不十分だったことが挙げられる。この課題は、毎回の授業で復習の時間を取ることで解決されると考えられ、さらに前回授業内容を思い出す時間があることで、生徒はその回の授業にスムーズに入ることができると考えられる。何度も繰り返して同内容を演習することによって、問題の解き方をほぼ完全に習得できたのではないかと考えられる。

#### 注力領域と結果（改善点）

2月の偏差値が12月の偏差値と比べて低下してしまった原因として、重要単元である連立方程式・1次関数の復習が不十分だったことが挙げられる。この課題は、毎回の授業で復習の時間を取ることで解決されると考えられ、さらに前回授業内容を思い出す時間があることで、生徒はその回の授業にスムーズに入ることができると考えられる。

### 中2英語

#### 注力領域と結果（成果）

中3になってからの受験勉強に向けた基礎固めを徹底することに重きを置いた。単語と文法を復習する機会を授業の中で定期的に設けるとともに、長文読解の演習の際にも重要な単語や文法が出てきた時には必ずその意味や用法をおさえた。また、ただ暗記するのではなく、他の単語や文法と関連付けながら工夫して体系的に覚えるコツを伝えた。結果としてテストでは単語や文法レベルでのミスが減り、長文読解や英作文の精度も向上した。

#### 注力領域と結果（改善点）

基礎固めに重点を置いた上に、教科書に準拠したテキストのみを使って演習をしたため、長文読解や英作文、リスニングの実践的な演習の機会が少なかった。テストでの成績を伸ばすためには教科書にない初見の長文や英作文の問題を扱うべきだったと考えられる。また、前回の授業内容を授業の始めに確認すると忘れていた生徒もいたため、小テストを実施するなど、授業内容を復習する機会を宿題以外にも設ける必要があったと思われる。



## 中学3年生

### 中3国語

#### 注力領域と結果（成果）

まず、国語の問題をといている様子から、生徒によってさまざまではあるものの集中力が途中で途切れてしまったり、空欄なく埋めることを諦めてしまったりする生徒も多かった。そのため、まずはテストを空欄なく埋めることの重要性を繰り返し伝えた。集中して解ききるということがある程度できるようになった段階で、文法や穴埋め問題で使える、解き方のコツを集中的に教えて、時間内に解き終われることを目指し、最終的に複数の生徒の空欄が減った。

#### 注力領域と結果（改善点）

今回欠席の多かった生徒の多くは割と空欄が少ない生徒も多かった。授業に来なかった原因として、「空欄を埋めよう」という段階からはじめてしまったため、生徒によっては安易すぎると感じて授業に来なくなってしまった可能性もあるかもしれない。また、日によって来る生徒が大きく変わることが多かったため、連続した説明や宿題の解説がしにくく、そもそもプリントにまとめないと均等に生徒に伝えられなかったりした。そのため、逆に毎回来ている生徒は同じ話の余分な部分も何度も聞くこともおきてしまった。

### 中3数学A

#### 注力領域と結果（成果）

基礎事項は身につけていることを前提として、過去問を用いた演習を行い、解答解説とともに各分野の復習や問題を解くための一般的な方法を伝えられるように、授業を行った。特に、各大問の後半の小問および思考力を問う大問10に取り組むためのコツに重きをおいて説明した。以上の取り組みにより、2月ごろにはほとんどの生徒が大問10にも臆せず手を付けられるようになり、完答することもしばしばあった。

#### 注力領域と結果（改善点）

生徒の受験状況に応じた対策が行えたらよりよい授業になったと思う。拠点が3つあるうえに、生徒によっては私立に合格していたり、推薦で合格していたり、これから一般入試を受けたりと、それぞれの背景をもって授業に参加していた。たとえば、受験を控えている生徒には追加のまとめプリントを出したり、すでに合格している生徒には中学校の範囲を超えた問題にチャレンジしてもらったりすると、さらに刺激的な授業になったと思われる。

## 中3数学B

### 注力領域と結果（成果）

入試まで2ヶ月ほどという時期からの開始であったため、入試の過去問演習を行い、その解説をするという形式で授業を進めた。前半の大問で問われるような計算問題や基礎的内容はかなり正答率がよかったため、後半の図形問題や確率といった分野の解説に多く時間を割くようにした。回数を重ねていくにつれて問題のパターンに慣れてきたりと以前は手がつけられなかった問題に対しても取り組むことができるようになるなどの進歩が見られた。

### 注力領域と結果（改善点）

生徒によって問題を解き終わるスピードに違いがあることを考慮した授業構成がうまくできていなかったことが改善点である。解き終わった生徒同士で解き方の確認や教え合いをしていたため、生徒が時間を持て余すような事態にはならなかったが、解き終わった生徒に対する指示出しをもう少しうまく行えたらよりよい授業になったと思う。

## 中3英語A

### 注力領域と結果（成果）

中3ということで受験に向けた実戦的な演習を中心に行なった。過去問をベースに授業を行い、その中で単語や文法といった基礎事項を適宜復習しながら進めた。また、過去問演習を中心としながらも毎授業で単語テストを実施し、基礎固めの徹底を図った。結果として単語や文法レベルでのミスは少なくなり、長文読解や英作文でも取るべき問題で得点することができるようになった。全体として過去問演習時の正答率は向上した。

### 注力領域と結果（改善点）

過去問演習時に時間を測ってはいたものの、制限時間の中で解ききることができた生徒は少なかったことから、正確に解答することに対する意識付けは行えた一方で、ミスなく速く解くことに重きを置いた演習ができなかったと考えられる。また、長文読解や文法問題が演習の中心となってしまう、英作文は宿題にまわすことが多かった。リスニングに関しては演習の機会を設けることができなかった。各分野で満遍なく演習の機会を設けるべきだったと考えられる。